

新かながわ

発行所 新かながわ社

〒231-0028 横浜市中区新町1-4-4
大有ビル4F 402号
電話045 (641) 7181
FAX 045 (641) 8368
メール sinkanagawa@blue.ocn.ne.jp

1966年1月22日 第三種郵便物認可
(週刊一月4回・日曜日発行)

定価1150円400円 郵送料 1ヵ月160円



-1-

このコラムを全十回書くことになった。よろしく。

まず、自己紹介。一九三三年五月、小林多喜二が逮捕されその日に虐殺された三カ月後、つまりは大変な時代に私は東京に生まれた。ドイツでは、ヒトラーが首相になり(一月)総選挙で第一党の位置を再度確保して共産党を非合法化、ハー

ケンクロイツの国旗化(三月)など大衆的支持を得ながらナチ専制支配に突進していた時代だ。

私の神奈川との縁は、職業生活最初の職場川崎北部の菅生に現

人生を続けるということ

働き、専門が労働問題だということもあって神奈川の社会労働運動に関わり、多くの実践家と現在に至るまで交流を持つことになった。

横国時代の最後の局面で、現在本紙の編集

『会的費用論』であったと彼が覚えていた。

横国に続く第三の職場は九大経済学部で十年、一年の失業を挟んで下関市大学長職を六年務めた。○四年春以降は湘中央海老名に住み、職業は退役だが市

民としては現役の社会生活を送っている。

五六年創立以来式典に大きな日の丸を掲げてきた市大の学長時代、中国・韓国の大学と交流する大学にアジア侵略のシンボルだった

た「日の丸」が相応しくないだけでなく、そもそもいかなるデザインのものであれ学問の

憲法二三条に照らせば、大学式典に国旗掲示は許されないと理意から、日の丸無し

九九年五月一日の「赤旗」が私へのインタビューを大きく記事にしたことを覚えていの方も本紙の今の読者におられると思う。

下山房雄(海老名在住)